

CONTENTS

● 「2016楽器フェア」AMEIイベント開催報告	1~5
● 製品安全・環境委員会 安全規格部会報告	6
● 著作権・ソフト委員会報告	7
● AMEI会員名簿・MIDI検定2級2次試験開催のお知らせ	8

## 2016楽器フェア AMEIイベント開催報告



平成28年11月4日より11月6日まで3日間にわたって「2016楽器フェア」が東京ビッグサイトにて開催されました。会場を東京ビッグサイトに移して二回目の開催となった楽器フェアですが、今年はTOKYO GUITAR SHOW/GEN SOUND TASTING 2016/シンセフェスタ16/ポータブルオーディオフェスティバル/ドラマーズパラダイス2016とギター/ベースやシンセ、ポータブルオーディオ、ドラム等の楽器・機器別に展示・イベントを実施。AMEIはシンセフェスタ16イベント内にセミナーエリアを設け10のセミナーを実施しました。

楽器フェアとしては、一般入場者：33,193人/高校生以下・70歳以上(無料)：3,477人と業界関係/報道関係者10,306人：合計46,976人と、前回の入場者数：40,647人を上回り、コンシューマー向け楽器ショーとしてより多くの方々に楽しんでいただけました。

# 2016楽器フェア AMEIイベント

今年度の2016楽器フェアにおきましては、AMEI事業委員会として以下の10のセミナーを実施しました。シンセフェスタ16 エリア内にAMEIセミナーブースを設置し、そこでのセミナーとなったのですが、シンセフェスタ16のステージと隣り合った場所でのセミナーであった為、どちらかのステージで大きな音量でのシンセデモ等を行うと、もう一つのステージでは解説などは聴き取りづらく、登壇された出演者にはご迷惑をお掛けした場面も見られましたが、セミナーを通して多くの来場者の皆様には楽しんでいただく事ができました。

AMEIの専門委員会としては、4つのセミナーを実施しました。

メディアコンテンツ委員会：古山委員長は株式会社コルグ三枝監査役と共に電子楽器のルーツについて1915年までさかのぼり、大変興味深い電子楽器にまつわるエピソードを語っていただきました。

また、MIDI検定委員会としては、2日間セミナーを担当いただき、現在のDTM事情を紹介しつつ、作曲りのノウハウを解説いただきました。

そして、MIDI規格委員会は「MIDIの過去・現在・未来」と題して、AMEI技術研究部会に参加いただいている各社様の協力の基、技術的な側面からMIDIの過去・現在を紹介し、ユニークなMIDI応用楽器・機器を紹介いただきました。またAMEIにおけるオープン活動であるMIDI仕様書、RP/CAの公開、github、Creators' Hub、youtubeを使った活動等、今後の展開について紹介いただきました。

尚、全てのセミナーにおいて企画スタート時点から機材の準備及びセッティング、実際の音響のオペレートまで運営全般について、AMEI事業委員会：大谷委員長には、いつもお世話になり、ありがとうございます。



[トップページ](#) | [2016楽器フェア MusicFair](#) | [シンセフェスタ16 SYNTH FEST 16](#) | [音楽電子専業協会 AMEI](#) | [MIDI検定公式サイト MIDI](#) | [会場へのアクセス](#) | [お問い合わせ Contact Us](#)

## AMEI Seminar

**Seminar Menu**

シンセサイザー・サウンドデザインの極意！定番テクニックとその応用

電子楽器のルーツを辿って

VOCALOID歌声開発・ここだけの苦労話と拡がる世界

内藤 朗 直伝！目指せミュージッククリエイター！～今すぐ始めるイマドキのDTM作曲入門～

タンスは何でも知っている！～モジュラーシンセの魅力大解説！～

21世紀のアナログ/デジタル・シンセサイザー Roland JD-XAを篠田元一が徹底解説

DAWソフト「ABILITY 2.0」での作曲方法と機能紹介

内藤 朗 直伝！目指せミュージッククリエイター！～今すぐ始めるイマドキのDTM作曲入門～

MIDIの過去・現在・未来

リアチェンVOICE技術発表



開催時間	タイトル	出演者	内容
11月4日(金)	13:00開演	生方ノリタカ	ヤマハアードリアやKV331 AUDIOなどで数々のシンセサイザーをプログラムし、LADY GAGAのワールドツアーのシンセ・サウンドを担当した日本が誇るシンセサイザー・デザイナー、そして世界有数のテルミニストである生方氏に、シンセサイザー・サウンドデザインの極意を語っていただきます。
	15:00開演	三枝 文夫 古山 俊一	我が国での電子楽器の歴史は不明な点も多く、特に戦前のテルミンなどの電波楽器やオリジナルの楽器についての情報は謎だらけです。今回はその部分にもスポットを当て、かつて登場した興味深い電子楽器のエピソードなどを語っていただきます。
	17:00開演	木村 義一 吉田 雅史	普段滅多に語られることのないVOCALOID歌声ライブラリの開発の舞台裏、苦労話と、歌声ライブラリを活用した音楽制作以外の拡がりや用途などを紹介いたします。
11月5日(土)	11:00開演	内藤 朗 直伝① 目指せミュージッククリエイター！～今すぐ始めるイマドキのDTM作曲入門～	内藤 朗 MIDI黎明期から受け継がれてきた王道の打ち込みワザに加え、今日のソフト音源を使用した「イマドキの打ち込みワザ」など、MIDIの打ち込みまつわるあれこれを60分に可能な限り凝縮したMIDIについて深く知るためのセミナーです。「DAWを使って作曲りを始めてみたいが、何から始めれば良いかわからない」という方、「しばらくDTMから遠ざかっていたが、また始めたい」という方が安心して作曲りが始められるように、現在のDTM事情を紹介しつつ、作曲りのノウハウを解説します。
	13:00開演	タンスは何でも知っている！～モジュラーシンセの魅力大解説！～	松武 秀樹 今や世界的なブームとなっているモジュラーシンセの魅力や、世界的なシンセスト松武秀樹氏が初心者にも分かりやすく解説します。もちろんリアルタイム・プログラミングや演奏実演もあり、シンセ初心者からマニアまで必見のセミナーです。
	15:00開演	21世紀のアナログ/デジタル・シンセサイザー Roland JD-XAを篠田元一が徹底解説	篠田 元一 2015年に発表された大きな話題となったRoland JD-XA。アナログとデジタルの2つのエンジンを備え自由な発想でサウンド・メイクが可能なこのモデルを、クリエイター/プレイヤー2つの視点から篠田元一氏が徹底解析します。
	17:00開演	DAWソフト「ABILITY 2.0」での作曲方法と機能紹介	小川 悦司 米澤 美玖 進化し続ける当社が開発・販売するDAWソフト「ABILITY Pro 2.0」を使用した楽曲制作の方法を紹介。抜群の操作性、入力、編集機能を備えたピアノロール、スコア、ステップエディタ、ステップシーケンサを使用した打ち込みテクニックからLOOP素材の活用、オーディオ録音、ミックスまでのポイントを分かりやすく解説します。
11月6日(日)	12:00開演	内藤 朗 直伝② 目指せミュージッククリエイター！～今すぐ始めるイマドキのDTM作曲入門～	内藤 朗 MIDI黎明期から受け継がれてきた王道の打ち込みワザに加え、今日のソフト音源を使用した「イマドキの打ち込みワザ」など、MIDIの打ち込みまつわるあれこれを60分に可能な限り凝縮したMIDIについて深く知るためのセミナーです。「DAWを使って作曲りを始めてみたいが、何から始めれば良いかわからない」という方、「しばらくDTMから遠ざかっていたが、また始めたい」という方が安心して作曲りが始められるように、現在のDTM事情を紹介しつつ、作曲りのノウハウを解説します。(①と同様の内容となります)
	14:00開演	MIDIの過去・現在・未来	柿下 正尋 渡邊 正和 福田 大徳 工藤 俊介 浅野 貴裕 AMEI技術研究部会に参加いただいている各社様の協力の基、技術的な側面からMIDIの過去・現在を紹介し、未来について考えてみたいと思います。講演では、各社様から技術や製品を紹介いただきます。またAMEIにおけるオープン活動であるMIDI仕様書、RP/CAの公開、github、Creators' Hub、youtubeを使った活動について紹介いたします。
	16:00開演	リアチェンVOICE技術発表	飛河 和生 クリムゾンテクノロジー株式会社は、このたび奈良先端科学技術大学院大学戸田智基客員教授(名古屋大学教授)の研究グループが共同開発によりリアルタイム音声変換システム「リアチェンvoice」を開発しました。キャラクターの声を予め登録し、現場のアクターの声をキャラクターの声にリアルタイム変換※します。複数のアクターが特定のキャラクターの声を発生させることが可能となりました。※当社 Metamorphose 方式により実現。今回のイベントでは、「リアチェンvoice」の開発背景、技術仕様、システム概要(プロ版、標準版)の説明をします。実演では、「リアチェンvoice」を使用してリアルタイムに音声変換します。また将来に向けて「リアチェンvoice」の可能性を考えてみたいと思います。

※混雑状況によってはお立ち見になる場合がございます。また、会場が満員の場合は入場をお断りする場合がございますので御了承下さい。



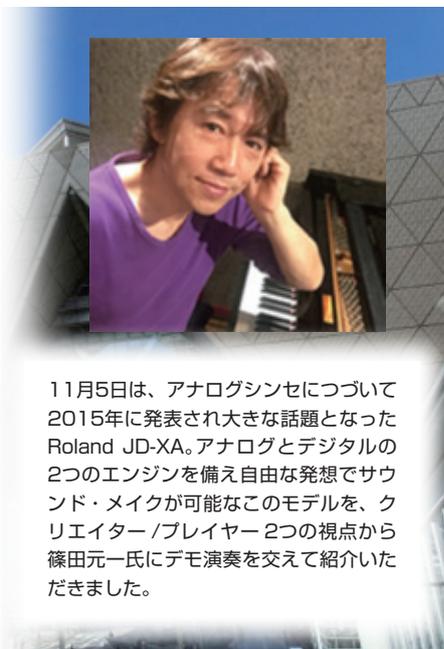
11月5日：2回目のステージは、松武秀樹氏による、おなじみの巨大なアナログモジュラーシンセサイザー MOOG III-Cの音作り講座。おなじみのMOOGシンセの重低音は、楽器フェア会場中に響き渡る迫力でした。

# タンスは何でも知っている！ ～モジュラーシンセの魅力大解説！～



## 21世紀のアナログ/デジタル・シンセサイザー Roland JD-XAを篠田元一が徹底解析

JD-XA  
Analog/Digital  
Crossover  
Synthesizer



11月5日は、アナログシンセにつづいて2015年に発表され大きな話題となったRoland JD-XA。アナログとデジタルの2つのエンジンを備え自由な発想でサウンド・メイキングが可能なこのモデルを、クリエイター/プレイヤー2つの視点から篠田元一氏にデモ演奏を交えて紹介いただきました。



・講師名：小川悦司

ギタリスト、作編曲家、プロデューサー。  
ギタリストとしてもポケモンベストウィッシュから創国四季まで様々な作品に 参加。またDTM専門誌の連載も多数手がけるほか、notallなどのアイドルから五十嵐はるみ、米澤美玖などJAZZまで数多くの作品をプロデュースしている。

11月5日最後のステージは、ギタリスト：小川悦司氏とサックス奏者：米澤美玖女史によるDAWソフト「ABILITY Pro 2.0」を使用した楽曲制作の方法を紹介。抜群の操作性、入力、編集機能を備えたピアノロール、スコア、ステップエディタ、ステップシーケンサを使用した打ち込みテクニックからLOOP素材の活用、オーディオ録音、ミックスまでのポイントを分かりやすく紹介いただきました。

# ABILITY 2.0 作曲講座

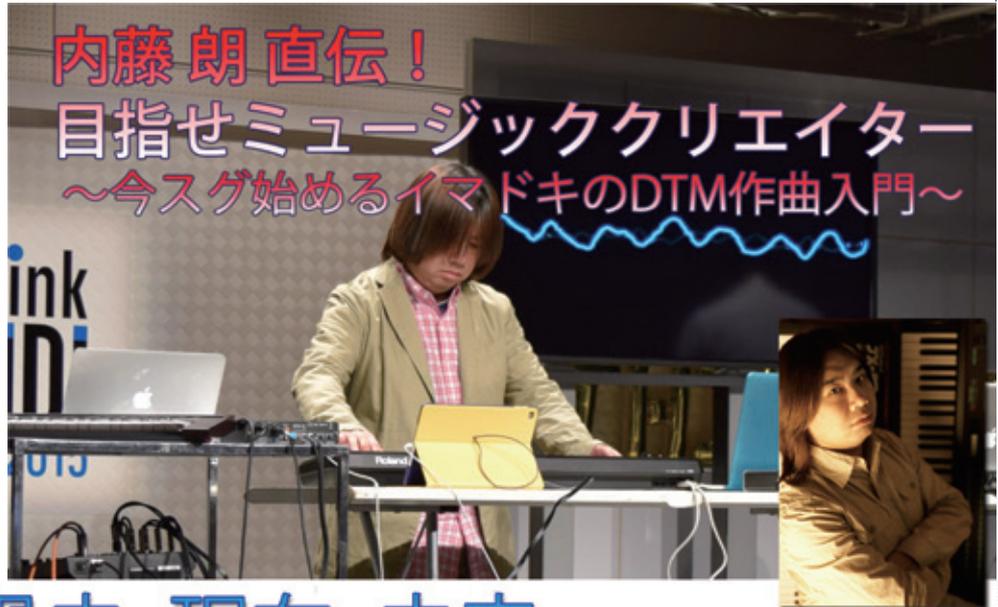
Windows 10 対応

ABILITY 2.0

・ゲスト：米澤美玖 (サックス奏者)  
2016年1stアルバム「Amusement」をリリース。  
ANAM機内放送でも楽曲が採用され、TBSラジオ「たまもすび」にもゲスト出演するなどジャズ、ファンクを中心に幅広い演奏活動を行う、今注目のプレイヤーである。

11月5日及び11月6日の最初のステージは、MIDI検定委員会：内藤朗氏によるDTM作曲入門講座を実施していただきました。

MIDI黎明期から受け継がれてきた王道の打ち込みワザに加え、今日のソフト音源を使用した“イマドキの打ち込みワザ”など、MIDIの打ち込みまつわるあれこれを60分に可能な限り凝縮したMIDIについて深く知るためのセミナーです。「DAWを使って曲作りを始めたいが、何から始めれば良いかわからない」という方、「しばらくDTMから遠ざかっていたが、また始めたい」という方が安心して曲作りが始められるように、現在のDTM事情を紹介しつつ、曲作りのノウハウを解説していただきました。



# MIDIの過去・現在・未来

MIDI 1.0 規格書  
フリーダウンロード  
開始  
MIDI規格委員会



柿下 正寿 (KAKISHITA Masahiro)

ヤマハ株式会社 / AMEI技術研究部 部長

技術研究部の各社様の協力の基、技術的な側面からMIDIの過去・現在を紹介し、未来について考えてみたいと思います。講演では、各社様から技術や製品を紹介いただけます。またAMEIにおけるオープン活動であるMIDI仕様書、RP・CAの公開、github、Creators' Hub、youtubeを使った活動について紹介します。

東京ビッグサイト(西)ホール  
AMEIセミナーブース  
11月6日(日) 14:00開演

**藤田大徳 (FUKUDA Hironori)**  
株式会社コルグ、開発3部部長。2004年にコルグにソフトウェア・エンジニアとして入社。KORG Gadget などソフトウェア製品全般、plugKEY / microKEY Air / nanoKEY Studio など担当。

**浅野 貴裕 (ASANO Takahiro)**  
ヤマハ株式会社 楽団・音楽開発本部 ITプロジェクト 主事。2003年入社。IoTプラットフォームの企画・開発を主務としながら、音・音楽の未来を語るFSMプロジェクトに参加。セミナーでは、Creators' Hubを活用したドローンレースの統合演出システム「Sound Drone Racing Concept」を紹介いたします。

**工藤 俊介 (KUDOH Shunsuke)**  
株式会社スーパースタジオ エンタテインメント / ワイビジョン シニアマネージャー。2009年入社。リアルタイムオーディオ録音・再生製品(H series F series)、EDM音源制作やVR/ARコンテンツ制作に携わっており、音響機器・商品企画・製品仕様・音質監修・生産立ち上げまでの日程管理、コスト管理を担当。

**渡邊 正和 (WATANABE Masakazu)**  
ローランド株式会社 / AMEI MIDI Developer Relations WG ソフトウェア・エンジニア。AMEIのWeb MIDI APIを使った執筆活動を通じてMIDIの普及活動を行っている。

11月6日2回目のステージは、MIDI規格委員会技術研究部会主催にて、各社MIDIに関するユニークな開発商品やイベントを紹介し、今後のMIDIに対する取り組みやAMEIにおけるオープン活動であるMIDI仕様書、RP/CAの公開、github、Creators' Hub、youtubeを使った活動について紹介いただきました。

11月6日最終ステージは、クリムゾンテクノロジー株式会社と奈良先端科学技術大学院大学戸田智基客員教授(名古屋大学教授)の研究グループの共同開発によるリアル&リアルタイム音声変換システム「リアチェンvoice」についての技術説明を行いました。

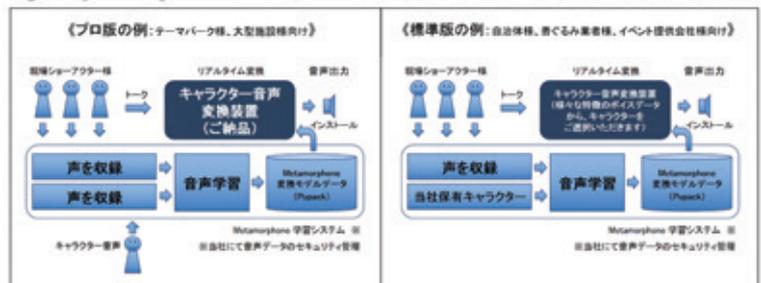
この技術は、キャラクターの声を予め登録し、現場のアクターの声をキャラクターの声にリアルタイム変換\*します。(※Metamorphose 方式により実現。)

これにより 複数のアクターが特定のキャラクターの声を発生することが可能となりました。

今回のイベントでは、「リアチェンvoice」の開発背景、技術仕様、システム概要(プロ版、標準版)の説明を行ない、実演では、「リアチェンvoice」を使用してリアルタイムに音声変換のデモを行いました。



# リアチェンVOICE 技術説明



<p><b>&lt;リアチェン voice 技術仕様&gt;</b></p> <p>当社 Metamorphose 方式によるリアルタイム合成 入出力音声形式: ビット幅:16bit サンプリング周波数: 44.1kHz または 48kHz 処理遅延: 100ms 程度(環境によって異なります) 動作 OS: Windows (他 OS へも順次対応予定) 外部オーディオ入出力 I/F:ASIO 対応のもの</p>	<p><b>&lt;クリムゾンテクノロジー株式会社 概要&gt;</b></p> <p>設立: 2002年2月22日 業務概要: 音楽配信コンテンツ提供 ソフトウェア受託開発(アプリケーション・サーバ等) オリジナルミドルウェアツールライセンス販売 スマートフォン向けアプリ開発販売 電子書籍コンテンツ出版販売</p>
---	---

# EMC の電子楽器専用基準 (AMEI 提案) の国際標準化

製品安全・環境委員会 安全規格部会 田畑 祐輔

2004年に無線障害の国際規格審議委員会である CISPR は、AV機能とIT機能(複合機能)を有する機器に対応するための新 EMC 統合国際規格(CISPR35:マルチメディア・イミュニティ規格)の発行を目指したプロジェクトを立ち上げました。

CISPR35が発行されると、現行規格(CISPR20、24)は廃止され、全世界的に電子楽器の全てがこの新規格で評価されることになります。

新規格では、以下の現行規格での問題を解決し、電子楽器に相応しい国際規格に作り上げる必要があります。

- ①すべての機器に対して一律の EMC 基準が適用されるため、ユーザーの使用用途により、幅広いラインアップを展開している電子楽器にはそぐわない。
- ②動作モードおよび性能基準が明確になっていないため、すべての動作モードでより詳細な評価を行う必要があり、莫大な手間とコストがかかっている。
- また、評価結果にバラツキが生じやすいため、合否判定をめぐる当局と見解の相違が発生する可能性がある。
- ③個別製品の特殊仕様には対応できていないため、MIDI 通信エラー等の対応に莫大な手間とコストがかかっている。

そこで、安全規格部会にて新規格のあるべき姿を検討・審議し、EMC の電子楽器専用基準案を策定しました。

策定した電子楽器専用基準案の国際規格化(CISPR35への採用)を目指して、2005年に総務省傘下の CISPR 委員会を通じて CISPR に提案しました。

CISPR 提案後も、継続して電子楽器専用基準案のブラッシュアップを図るとともに、関係各方面に対する働きかけを10年以上にわたり積極的に行った結果、電子楽器専用基準案は、今年8月発行の新 EMC 統合国際規格(CISPR 35:2016)に採用されました。

ご協力いただいた関係の皆様方に、この場をお借りしまして感謝申し上げます。

安全規格部会は、今後も製品安全・EMC の国際標準化

活動に積極的に貢献してまいります。

関係の皆様方のさらなるご指導・ご支援をお願い申し上げます。

## ・EMC の電子楽器専用基準の概要

CISPR 35は、主に一般性能基準が規定されている本文と機能毎の専用性能基準が規定されている付属書(A~J)で構成されております。

CISPR 35本文および付属書の構成は表1の通りです。

製品の主機能が付属書に規定されている場合は、該当する付属書の性能基準が優先され、製品の主機能がどの付属書にも該当しない場合は、

本文に規定されている一般性能基準が適用されます。

AMEI 提案の EMC の電子楽器専用基準は、CISPR 35に付属書 E (楽音生成機能) として採用されており、その概要は以下の通りです。

- ①製品の EMC 性能別に以下の3つのクラスに分けられており、ユーザーは、用途に応じた的確に製品を選択できます。

- ・ High-end quality suitable for professional use or studio recording
- ・ Middle grade quality suitable for amateur use or home use
- ・ Entry grade quality for practice or exercise use

- ② EMC 性能別に分けられた上記3つのクラスから製品の仕様により製造者がクラスを選択できます。

- ③動作モードの明確化および基本的性能に絞込んだ基準の設定により、製品コストの削減と設計・開発リードタイムの短縮が実現できます。

また、評価結果のバラツキが抑えられることで、当局との見解の相違によるリスクの最小化が図られます。

- ④ MIDI 通信エラーに対する独自の緩和規定の設定により、製品コストの削減と設計・開発リードタイムの短縮が実現できます。

表1 CISPR35本文と付属書の構成

本文の構成		付属書の構成	
第1章	適用範囲	付属書 A(規定)	放送受信機能
第2章	引用規格	付属書 B(規定)	プリント機能
第3章	用語、定義及び略語	付属書 C(規定)	スキャン機能
第4章	要求事項	付属書 D(規定)	ディスプレイおよびディスプレイ出力機能
第5章	イミュニティ要件	付属書 E(規定)	楽音生成機能
第6章	文書	付属書 F(規定)	ネットワーク機能
第7章	試験構成	付属書 G(規定)	音声出力機能
第8章	一般性能基準	付属書 H(規定)	電話機能
第9章	本規格への適合	付属書 I(参考)	800MHz 以上の周波数で動作する特定の無線技術へのイミュニティ
第10章	試験の不確かさ	付属書 J(参考)	本規格を適用する方法の例



製品安全・環境委員会  
製品安全規格部会

## CISPR とは

CISPR (国際無線障害特別委員会) は、無線障害の原因となる各種機器からの不要電波(妨害波)に関し、その許容値と測定法を国際的に合意することによって国際貿易を促進することを目的として1934年に設立された IEC (国際電気標準会議) の特別委員会です。

組織的には、IEC の特別委員会となっていますが、その地位は IEC の他の専門委員会とは異なり、無線妨害の抑圧に関心をもついくつかの国際機関も構成員となっています。また、ITU-R (国際電気通信連合無線通信部門) や ICAO (国際民間航空機関) の要請に応じて無線妨害に関する特別研究を引き受けるなど、他の国際機関との密接な協力体制がとられています。

CISPR は、一般に「シスプル」と読み、フランス語で次のとおり表記されます。

Comite international Special des Perturbations Radioelectriques

なお、英語では、次のように表記されます。International Special Committee on Radio Interference

# 文化庁「著作権等の集中管理の在り方に関する調査研究」ヒアリングに対応

著作権・ソフト委員会 委員長 戸叶 司武郎

著作権・ソフト委員会の各部会／WGは、今期も活発な動きを継続しております。直近6ヶ月間の主な活動をご報告致します。紙面の制約上、全てをご報告できないことをご容赦下さい。

## ●管理事業法研究WG

文化庁の調査研究事業「著作権等の集中管理の在り方に関する調査研究」の中で、制度見直しの要否等について業界関係者へのヒアリングが行われました。AMEIは業務用通信カラオケ事業分野の利用者代表として、またNMRC構成主要団体として、音楽の著作物に係る重要な関係者であり、ヒアリングにはNMRC代表世話人でもあるAMEI和田副会長と、AMEI岩崎専務理事（NMRC事務局兼務）が対応しました（2016年9月13日）。その2週間前には7月1日までに提出されたパブリックコメント146件の集計結果が文化庁のホームページにて公示され、AMEIが提言する「事業の登録・約款・使用料規程は許認可制にするべき」と同じ意見が多数提出されたことがわかっていました。ヒアリングに際しては、平成22年8月5日付け文化庁長官宛「著作権等管理事業法の法改正を求める請願書」など、AMEIが過去から一貫して指摘・提言してきた資料を事前に送付し、今回のパブコメで提言した問題点・改正すべき点を明確に主張しました。調査研究結果は文化庁のホームページで掲載される予定です。

### 著作権等管理事業法パブリックコメントについて

- ・AMEIが提出したパブコメ全文はAMEIのHP内 information画面の2016.07.05参照。  
※パブコメ応募結果の公示は、電子政府の総合窓口 e-Govより、下記キーワードで検索ください。  
<http://search.e-gov.go.jp/servlet/Public>  
(結果公示案件>案件番号185000833、2016.08.29)  
※調査研究結果が報告される予定の文化庁サイト  
[http://www.bunka.go.jp/tokei\\_hakusho\\_shuppan/](http://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/)  
(ホーム>統計・白書・出版物>統計・調査研究等>著作権に関する調査研究等)

## ●音楽配信部会

NMRCを通じての管理事業者との協議に参画しています。JASRACとは、2016年3月末までの動画DL仮承認サービスの使用料精算に合意しました。精算の為の料率や条件が今後の規程改定に影響を及ぼさない前提は従前同様です。昨年2月1日の改定規程に積み残された、月額最低使用料、マルチデバイスの取扱い等々についてはまだ合意に至らず協議を継続します。株式会社NexTone（ネクストーン）からは、同社として最初の使用料規程を本年4月から運用したい旨の打診を受け（現状はJRC、イーライセンスそれぞれの規程に基づいて許諾・運用中）、昨年8月30日に配信規定（案）概要説明会を開催しました。新規程の基本コンセプト、料率の根拠、用語の定義など不明点・矛盾点が多かった為、数ページにわたる質問文書の送付と回答のやりとりを経て、合意を前提とした協議を頻繁に実施しています。両社の規定にはそれぞれ固有の課題がありますが、合意に向けてスピード感を持ちながら、会員企業にとって新規ビジネス開拓を実現できるよう協議を進めていきます。なお、携帯端末で購入したコンテンツの「お

預かりサービスに関する合意」を2017年12月31日まで延長することを、関係する各権利ホルダーと合意致しました。

## ●カラオケ部会

NexToneと業務用通信カラオケ使用料の協議を重ね、2016年4月から9月までについては暫定で合意書を取り交わしました。10月以降については、使用料徴収の一元的集中管理手法の検討推進を含めて協議を継続中です。JASRACとは今後の協議に向けて利用者側の意見を部会内で構築・整理しており、準備が整い次第協議を開催する見込みです。

## ●音楽電子出版部会

TR-stg.で制作した電子楽譜TR/63020は、徳弘前部会長の著作としてIECのweb storeで50スイスフランで販売中です。部会長は昨年5月から吉川剛志氏（ヤマハミュージックメディア取締役コンテンツ配信部長）が引き継ぎ、NMRCのDMN（Digital Music Notation）WGリーダーも兼務しています。市販楽譜の版面権問題では権利者団体と、また会員企業による海外への楽譜販売・配信の可能性模索（海外版面の輸入販売・配信問題も含む）では電子書籍流通協議会と、それぞれ意見交換の場を設けて積極的に情報を収集しました。国内の電子楽譜市場調査では、pdf化された楽譜データの専用表示端末（Vewer）開発者から、次に汎用タブレット＆ブラウザで表示できるMusicXML楽譜データサービス提供者から、実機を用いたプレゼンを受け、市場とユーザーが大きく変化する予兆を感じました。音楽電子出版コンテンツ普及のための施策を具体化していく活動と、適切な使用許諾スキームを構築する為の権利者との協議を進めて行きます。

## ●ソフト規格部会

会員企業の運営する音楽教室に対し、JASRACから演奏使用料が発生するとの発言がありました。レッスンで演奏権が発生するという論理の矛盾について、部会内で情報収集と検討を始めました。またJASRACの「広告利用複製に関するガイドライン」についても問題点抽出とともに対応事例を集めています。AI著作物の権利研究では、テーマを「主に電子楽器関連で創作された著作物」に絞り込み、コルグ社のご協力の下、同社プレゼンテーションルームで研究会を開催しました。海外ビジネス展開検討では、JASRAC国際部との意見交換会を実施致しました。

## ●その他

2008年秋からスタートした早稲田大学創造理工学部との連携講座「国際コンテンツビジネスと著作権」は今年も開講し、シンクパワー社の富田社長にゲスト講師をご担当戴きました。CDCとは綿密な連携を維持しており、委員会／部会にはCDCから千葉氏がオブザーバーとして毎回ご出席戴き、要注著作物の最新情報を共有しています。

委員会の定例会は原則毎月第2木曜日にAMEI事務局会議室で開催しています。出席・参加ご希望の方は事前に事務局にお問い合わせ下さい。これからも引き続き会員各位の積極的なご参加をお待ちしております。

東日本大震災、並びに福島第一原子力発電所事故により被災された皆様に心からお見舞いを申し上げますと共に平成28年熊本県及び大分県にて発生しました地震により被災された方々に心からお見舞い申し上げます。また、被災地等におきまして、救援・復興支援等の活動に尽力されている方々に深く敬意を表し、併せて皆様の安全と1日も早い復興をお祈り申し上げます。

## 会員名簿

50音順 2016年5月6日 現在

### あ

- Apple Japan 合同会社

### い

- 株式会社インターネット

### え

- 株式会社エクシング
- 株式会社エフ・エヌ・エス

### お

- OTTAVA 株式会社

### か

- カシオ計算機株式会社
- 株式会社河合楽器製作所

### く

- クリプトン・フューチャー・メディア株式会社
- クリムゾンテクノロジー株式会社

### こ

- 株式会社コルグ

### し

- 株式会社シーミュージック
- 島村楽器株式会社
- 学校法人尚美学園
- 株式会社シンクパワー

### す

- 株式会社ズーム
- 株式会社鈴木楽器製作所
- 株式会社スリック

### た

- 株式会社第一興商
- 株式会社タムラ製作所

### て

- ティアック株式会社

### と

- 株式会社ドワンゴ

### に

- 学校法人片柳学園 日本工学院専門学校・  
日本工学院八王子専門学校
- 一般社団法人  
日本シンセサイザープロフェッショナルアーツ

### は

- Pioneer DJ 株式会社

### ふ

- 株式会社フェイス
- 株式会社フートレック

### や

- ヤマハ株式会社
- 一般財団法人ヤマハ音楽振興会
- 株式会社ヤマハミュージックメディア

### ら

- 株式会社ラグナヒルズ

### ろ

- ローランド株式会社
- 〈正会員会社 31 社〉

### \* 賛助会員

- 中音公司 (中華人民共和国)
  - 株式会社博秀工芸
  - 株式会社ミュージックトレード社
  - 株式会社リッターミュージック
- 〈賛助会員会社 4 社〉



### 新入会員のお知らせ

平成28年11月に株式会社エフ・エヌ・エス様が入会されました。http://fnsi.jp/company.html  
今後ともよろしくお願い致します。



平成28年度  
**「MIDI検定」**  
●ミュージッククリエイターのための認定制度

**第18回  
MIDI検定2級2次試験**

筆記試験：平成29年2月18日(土)PM1:30~PM3:00 東京A/B・大阪A/B会場  
課題製作：平成29年2月19日(日)~20日(月) 提出2月20日(月)消印有効

**申し込み期間 2016・12/5(月) ~ 2017・1/20(金)**



**受験案内**

the **NAMM**®  
**show** 17

January 19-22, 2017  
Anaheim Convention Center · Anaheim, CA

AMEI NEWS Vol.61 / 2017.2.3  
一般社団法人音楽電子事業協会 機関誌  
発行：一般社団法人音楽電子事業協会 事務局  
〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-16-9 イトービル4F  
TEL.03-5226-8550 FAX.03-5226-8549  
発行人：岩崎修三  
編集人：石黒士郎(広報委員会)  
編集協力：株式会社 博秀工芸  
ホームページアドレス：  
http://www.amei.or.jp/

